

カンキツかいよう病の発芽前防除における銅剤とマシン油乳剤の混用散布の検討

かいよう病の防除には、発芽前の銅剤散布が効果的であるが、マシン油乳剤と14日以上の間隔を空けて散布することが必要であり、短期間において個別に2回散布することは労力的負担が大きい。

そこで、発芽前防除の省力化を目的とした銅剤とマシン油乳剤の混用散布について防除効果を検討するため、混用するマシン油乳剤との組み合わせがかいよう病防除に及ぼす影響を調査した。

■ かいよう病

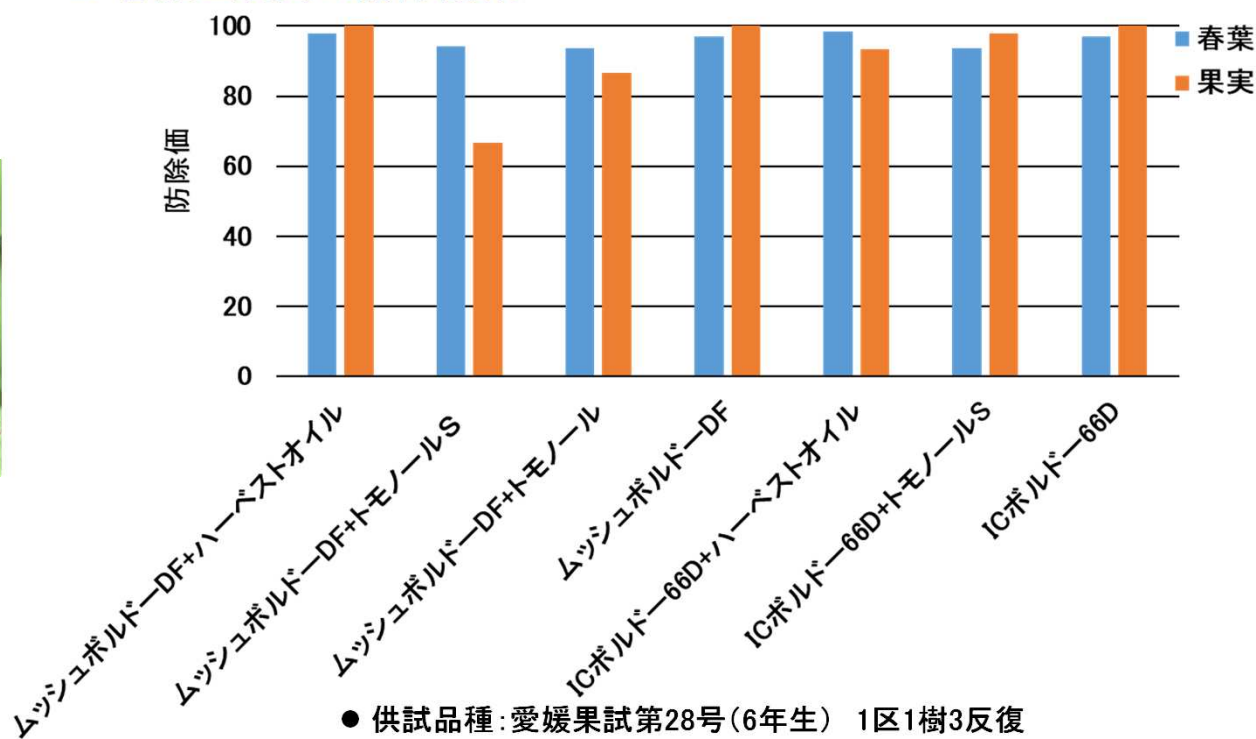
- 病原菌は細菌 (*Xanthomonas citri* subsp. *citri*)
- 葉、枝梢、果実で発生し、病斑の中心部はコルク化
- 病斑からは病原菌が流出し、周囲に伝染
- 愛媛県試第28号(紅まどんな)、甘平などは本病に弱い



■ 散布日と希釈倍数

試験区	1回目 3月25日	2回目 5月8日	3回目 6月5日	4回目 7月7日
ムッシュボルドーDF	500	500	500	500
ハーベストオイル(97%)	60	-	-	-
アブロン	-	-	200	200
ムッシュボルドーDF	500	500	500	500
トモノールS(97%)	60	-	-	-
アブロン	-	-	200	200
ムッシュボルドーDF	500	500	500	500
トモノール(95%)	45	-	-	-
アブロン	-	-	200	200
ムッシュボルドーDF	500	500	500	500
アブロン	-	-	200	200
ICボルドー66D	40	80	80	200
ハーベストオイル(97%)	60	-	-	-
アビオン-E	-	1,000	1,000	-
ICボルドー66D	40	80	80	200
トモノールS(97%)	60	-	-	-
アビオン-E	-	1,000	1,000	-
ICボルドー66D	40	80	80	200
アビオン-E	-	1,000	1,000	-
無処理	-	-	-	-

■ 春葉と果実の防除効果



- 供試品種: 愛媛県試第28号(6年生) 1区1樹3反復
- 接種: 2025年3月21日 25葉/樹(2か所/葉) 穿刺接種
- 調査日: 春葉(200葉) 7月6日、果実と薬害(50果) 7月31日
- 防除価 = $100 - \{(\text{処理区発病度} / \text{無処理区発病度}) \times 100\}$
※数値が大きい方が防除効果が高い

- 令和6年度の試験では混用散布で防除価が低下する傾向であったが、今年度は無処理区の発病度が低かったこともあり、春葉の防除価は混用散布と単用散布でほぼ同等となった。
- ハーベストオイルは防除効果が安定している可能性があるが、違いは明確ではないため、混用するマシン油乳剤との組み合わせについてはさらに試験が必要である。
- 果実での黒点症状(薬害+黒点病)の発生は、無処理区に比べて少なかったことから、薬害は無かったものと考えられた(データ略)。